

手
冊

光学天文連絡会会報

NO. 22 (1983-5)

Group of Optical and Infrared Astronomers
(GOPIRA)

光学天文連絡会事務局 (東北大・理) 発行

※※※ 第22回運営委員会報告 ※※※

日時 1983年5月9日 13:30~18:00

場所 東大・天文学教室302号室

出席 小暮、石田、寿岳、磯部、安藤、兼古、清水、田村、平田、小平、西村、(前原、田中)

欠席 山下、岡村、若松、佐藤

議題

I. 会務

- 新事務局長を前原英夫氏(東京天文台、木曾観測所)に依頼することにした。
- 1983年度総会を5月18日学会終了後(18:15-20:30)に行う。
- WGメンバーおよび世話人は後掲。

II. 会報No.2 / 後の経過報告

(1) 東京天文台から

台内連絡会(4月5日)、将来計画委員会(4月6日)、Informal Meeting(4月4日)がそれぞれ開かれた。光学赤外望遠鏡の具体的検討のため、光天連との調整が必要との認識があつたが、何もきまらなかつた。

(2) 京都から

5月4日(物理第二、宇物、天文台)の有志懇談会があつた。物理第二の1.8m鏡ハワイ案は三本柱の1つとすると共同利用体制を議論する必要がある。また、東京天文台ハワイ案が実現すれば副望遠鏡の位置付けが出来よう。

以上の報告の後、種々の議論を重ねたが、集約すると次の認識になる。

「できるだけ、すみやかに光学赤外望遠鏡を建設するという意味での国内3m案は難かしくなつた」その理由は、以下の通り。

1. サイト・サイエンスで制約があり、光天連内及び隣接分野で魅力のある計画として理解されなかつた。
2. 光天連内で十分な推進体制をつくれなかつた。
3. 光天連運営委員会は三本柱案で一本化したのが、異った意見を生かしきれなかつた。
4. 天文研連で光天連の計画が認められたか否かについて関係者の判断が分かれた。

従って、1983年度活動方針の成案を得るまでにいたらなかつた。

しかし次の4点は確認した。①大型装置を持ちたい。②赤外望遠鏡(海外に早急に)に重点をおく。③NITに向けて技術開発をしたい。④共同利用体制の確立をはかる。

また、これまでの光天連の三本柱の再検討のため、7月頃シンポジウムを開く予定である。

III. 新WGメンバーおよび世話人 (○印)

1. 望遠鏡

磯部(○)、山下、成相、辻、家、岡村、清水M、田中W、西村、富田、中井、佐藤修、安藤、舞原(○)

2. 体制

石田(○)、小平、田村、磯部、小暮、若松(○)、大谷

3. 国際協力

寿岳(○)、佐藤(○)、小平、北村、小暮、磯部、奥田、家、古在、前原

4. 海外中口径

兼古、西村(○)、磯部、若松、小暮、市川、佐藤修、平田(○)、松本、中井、舞原